

令和元年度 上河内中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

「人間尊重の教育」を基盤に、21世紀の担い手として「心身ともに健康で主体的に考え表現でき、粘り強く頑張り抜き、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

（2）具体目標 《目指す児童像》

よく考え、学ぶ子ども（知） 自分を見つめ、つくせる子ども（徳） 明るく、たくましい子ども（体）

【合 言 葉】 かしく・やさしく・たくましく

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

自他の幸せの実現を目指し、変化の激しい21世紀を力強く生き抜くたくましい子どもの育成を目指す。また、家庭や地域との一層の連携・協議を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。

《目指す学校像》 地域に愛され信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

未来を担う子どもを育て地域に愛され信頼される学校

- （1）児童一人一人のよさや可能性を認識し、認め合い、学び合う集団づくりに努める。
- （2）児童が学ぶ喜びを感じられるよう、授業改善及び個に応じたきめ細やかな指導の充実を図る。
- （3）豊かな心や創造性とともに自らの目標の実現に向けて粘り強く努力する心と体のたくましさを涵養する教育活動を推進する。
- （4）教職員が、チームの一員として連携・協働しながら不断に指導力を向上させるとともに、勤務時間を意識した働き方を進める。
- （5）校内体制及び家庭との連携充実により、問題行動等対策の充実を図る。
- （6）○「小中一貫教育・地域学校園」と「魅力ある学校づくり地域協議会」（以下「地域協議会」）を充実させ、地域とともにある学校づくりの推進に努める。

【上河内地域学校園教育ビジョン】

かしくたくましいゆずっ子の育成 ～基本を身に付け、人とつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 教育課程編成の方針

- （1）日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領に示された教育の目標や内容、県・市の学校教育の重点、努力の方向に基づき、更には地域社会や児童の実態等を十分に把握し「人間尊重の教育」を基盤に、調和と統一のある教育活動を積極的に推進する。
- （2）心身の発達段階や特性・子どもの育成に関わる多くの関係者の願いを考慮し「未来を担う子どもを育て地域に愛され信頼される学校」を目指す。
- （3）学習指導要領の原則を踏まえ、教育内容の質的・量的な充実を目指した学習指導を展開し基礎的・基本的な事項の定着と個に応じた学習活動の展開の充実努める。
- （4）各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動などの関連を図り、調和と統一のとれた編成に努める。
- （5）前年度活動の評価等、地域社会の実情・児童の実態等を踏まえ、柔軟な指導の形態・指導法の工夫・教育資源（人・地域・機関等）の活用につとめ、一人一人の教育的な課題がより確かに解決が図られるよう展開を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

○地域教育資源等の積極的活用

・縦割り班「にこにこ班」の効果的活用

○校内研修や地域学校園研修会を通じた教職員の資質・能力及びチーム力向上

・多様な児童の状況に応じた指導の充実

・学校リフレッシュデーなどによる勤務時間の意識化

【 学 習 指 導 】 ・「上央小授業スタンダード」の充実（活動の重点化 「問い」と学びあいを重視 一人一授業＋ミニ授業研究会推進） ○朝の学習タイムの重点化（学寮調査結果に基づく内容、指導学年の重点化） ・家庭学習の習慣化（記録カードとテストによる意欲向上） 【 児 童 指 導 】 ・ルールやマナーを守り、相手のことを考えて行動できる態度の育成（「上央っ子の誓い」等による全教職員での指導徹底） ○不登校、スマホ、いじめ対策の充実（支援体制構築、初期対応強化） ・優しく温かい学級づくり ・認め励ます指導の推進（挨拶と言葉遣いに係る指導と表彰の定期的実施） 【 健康（体力・保健・食・安全） 】 ○学校行事を活用した体と心のたくましさの涵養（羽黒山遠足、農業体験、運動会など） ○投力や持久力向上と姿勢の指導徹底（授業時の補強運動や習慣化促進 持久走大会、なわ跳び大会等の開催） ・登下校時の安全な歩行指導徹底 ・栄養バランスを考えた食事指導の充実

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童 80%以上 児童 96.0%	① 授業では、「学習のきまり」を全校で徹底し、基礎・基本の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの場を設定し、自分の考えを表現できる児童を育てる。 ② 学び合いを通して、自分と友達の考えを比較させたり関連させたりしながら、深い学びの実現に努める。 ③ 「話の聞き方・話し方」については、全教育活動を通して、学年の発達の段階を踏まえつつ、全職員による共通理解のもとで育成する。	A A A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 96.0%で指標を達成した。 ・教職員の肯定的回答率においても 95.7%と、授業で基礎・基本の定着を図るとともに、自分と友達の考えを比較させたり関連させたりしながら主体的・対話的で深い学びの実現に努めている成果と考えられる。 ・各教室に『「目・耳・心」で聞くこと』『「はっきり、ゆっくり、大きな声で」話すこと』など、聞き方や話し方について具体的に掲示した効果が上がった。 ・上央小スタンダードをもとにした授業の研究を継続的に学校課題に盛り込み、教員の研修を深めたことにより、児童の学習意欲も向上した。 【次年度の方針】 ・①②ともに、学習問題やめあてをはっきり自分の課題としてとらえ、見通しを立ててじっくり自分の考えをもち、書いたり話したりすること、それらを基に必要なに応じて話し合い、自分の考えを再構成し、まとめ振り返りという学習を展開していく。また基礎・基本の定着を図るために家庭学習を一層充実させていく。 ・落ち着いた環境の下で、真剣に学習に取り組むことの重要性を全職員で共通認識した上で、今後も研究を継続していく。さらに、「話の聞き方・話し方」の掲示物等を活用し、発達の段階に応じた考えを深める聞き方・話し方ができるようにしていく。

A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童 80%以上 児童 94.2% 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 教職員 80%以上 教職員 100%	① 道徳教育指導計画に基づき、全教育活動を通して道徳教育を計画的に実施する。 ② 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ③ 児童会活動や清掃における縦割り班活動を通して、思いやりの気持ちをもって助け合い協力する態度の育成をする。	A A A	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 94.2%，教職員 100%で指標を達成した。 - 人権を尊重する心や、人を思いやる心の涵養を目的に、道徳的価値を考える授業を展開してきた成果と考える。 【次年度の方針】 ①②については、今後も学習の時期を考慮し、体験的活動と関連を図りながら指導を進める。 ③については、全職員が共通理解のもとに一貫性のある指導ができるようにする。
A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童 90%以上 児童 90.5% 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 保護者 95%以上 保護者 91.2%	① 児童が正しく判断し責任ある行動がとれるよう、その姿を「上央っ子の誓い」「上河内中央小学校の約束」「上河内中央小学校の一日」「校庭での約束」に示し、学習と生活のきまりの徹底に努める。 ② 生活当番は、秩序があり安全な学校生活を実践できるよう生活目標を設定し、掲示や放送、校内巡視などを行って指導を徹底する。 ③ 避難訓練(火災・地震・竜巻・弾道ミサイル・不審者)、交通安全教室、緊急引渡し訓練の実施や「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」への理解や「フィルタリング設定100%キャンペーン」における学校の取組等を通して、児童や保護者に対して正しい使い方とマナーを発信し、情報モラル教育を推進し、危機管理能力を高める。	A A A	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 90.5%で指標を達成したが、保護者 91.2%で指標には届かなかった。 ①については、年度当初に学級単位で指導するとともに、必要に応じて繰り返し確認をしてきた。 ②については、生活当番の教員が校舎巡回を実施し安全確認に努めてきた。 ③については、今年度も緊急時児童引き渡し訓練を実施するとともに、火災・地震・竜巻・不審者を想定した避難訓練を実施し緊急時に備えた。 【次年度の方針】 ①については、引き続き朝の会や帰りの会で「よい子の生活」を取り上げ、定期的に振り返る機会を設けるとともに、放課後・休日等の過ごし方について、家庭と連携を図りながら、より良い生活の習慣が定着できるようにする。 ②については、生活当番の教員が巡視した際に、必要に応じて放送で注意を促したり、児童指導主任に報告したりして共通理解を図り指導に役立てていく。 ③については、今年度の反省を踏まえ、児童の主体的行動を育成できるよう各種の避難訓練の内容の改善を図る。また、情報モラルに関する計画的な指導を各学級で実施するとともに、家庭や地域への情報発信等、これまで以上に連携して危機意識を高めていく。

○A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童 95%以上 児童 95.6% 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 保護者 90%以上 保護者 87.0%	① 年3回の「あいさつ・言葉づかい名人」表彰や、地域協議会の挨拶運動で意識を高めながら、日々の生活指導の中であいさつや返事ができる子の育成を目指す。	A	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 95.6%で指標を達成した。一方、保護者は 87.0%で昨年度より 1.6%上昇したが指標には届かなかった。 ①については、地域協議会で年間 10 回、小中合同で年間 2 回、合計 12 回の地域ぐるみのあいさつ運動を実施した。 【次年度の方針】 - 学校独自の取組として、自発的なあいさつの態度や正しい言葉づかいを認め励ます「あいさつ・言葉づかい名人」の表彰を実施しており、次年度もさらに継続して取り組んでいく。 - 児童会が、あいさつ当番を選出し、計画的にあいさつ運動を実施する。 - 校内での日常のあいさつや各行事等での実践の他、各家庭でもあいさつや正しい言葉づかいができるように懇談会等であいさつの啓発を行っていく。
A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童 80%以上 児童 91.6%	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	A B B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 91.6%で指標を達成した。 - 羽黒山遠足や持久走大会、冒険活動教室などの体験活動を通して、児童が自分たちの力で粘り強くやり遂げられるような指導・支援を行ってきた。 【次年度の方針】 ①②については、児童が学習活動を振り返り、学びを通じた自らの成長や変容を自己評価できるよう、キャリアパスポートを積極的に活用する。 ③については、児童の小さな努力の積み重ねを紹介したり、表彰したりする場を設定し、実践に向けた意欲を高めていく。
○A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童 80%以上 児童 93.8%	① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 93.8%で指標を達成した。 - 家庭訪問や学年・学級懇談会、個人懇談等で健康や安全について話題にするなど、各家庭への協力を求めるとともに、保健便りや給食便り等で発信してきた成果と考える。

	② 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	A A	【次年度の方針】 ・①②継続 ・②については、学級活動や家庭科など、学校栄養士の専門性を生かした授業を各学級で実施し、バランスよく食べることの大切さを学年に応じて指導する。 ・③については、全職員の共通理解のもと、日常指導や各活動を計画的に実施し、自らの命を守り抜く行動力を育成することができるようにする。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童 80%以上 児童 91.6%	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさや個性を生かすとともに様々な人とかかわりながら、集団の一員としての役割に取り組もうとする意欲を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ② 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 91.6%で指標を達成した。【再掲 A5】 ・全校での羽黒山遠足、田植え、稲刈りや、5学年の総合的な学習の時間での藁すぐり、ぼうじぼ作りなど、地域との連携による体験的活動が定着してきている。さらに今年度は、3学年の社会や総合的な学習の時間においても、消防団や梵天祭りの学習などで地域の協力を得ることができた。 【次年度の方針】 ・児童が学習活動を振り返り、学びを通じた自らの成長や変容を自己評価できるよう、キャリアパスポートを積極的に活用する。【再掲 A5】
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童 80%以上 児童 93.4% 「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 教職員 80%以上 教職員 95.7%	① 外国語活動(外国語活動)を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語活動(外国語活動)に関する校内研修や授業を相互に見合う機会を充実して指導力の向上を図る。	B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 93.4%、教職員 95.7%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、外国語指導助手(ALT)の活用により授業を充実させるとともに、授業以外の時間を利用したALTとの交流などにより、英語でのコミュニケーションを図る機会を充実させる。 ・②継続

A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童 80%以上 児童 79.5% 「児童は、宇都宮の良さを知っている」 教職員 80%以上 教職員 82.6%	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	A A	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率 82.6%で指標を達成したが、児童は 79.5%で指標には届いていない。 【次年度の方針】 ・次年度から始まる「宇都宮学」の内容及び指導方法等について校内研修を行い、教職員が適切に指導できるよう共通理解を図る。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童 80%以上 児童 88.7% 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している」 教職員 80%以上 教職員 82.6%	① 児童がタブレット型パソコンや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	A A B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 88.7%，教職員 82.6%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①②については、タブレット型パソコンや情報通信ネットワーク、学校図書館など情報手段を活用するために必要な環境を整え、校内での共通理解を図った上で、年間指導計画に基づき活用していく。学校図書館教育年間指導計画の見直しを行い、各教科・領域及び各学年相互の関連を図って計画的に指導できるようにする。 ・③継続
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童 80%以上 児童 94.2% 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 教職員 80%以上 教職員 100%	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。【A2②再掲】 ② 道徳教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して道徳教育を計画的に実施する。【A2①再掲】 ③ 地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。	A A A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 94.2%，教職員 100%で指標を達成した。 ・人権を尊重する心や、人を思いやる心の涵養を目的に、道徳的価値を考える授業を展開してきた成果と考える。【再掲 A2】 【次年度の方針】 ・①②については、今後も学習の時期を考慮し、体験的活動と関連を図りながら指導を進める。 【再掲 A2】 ・③継続
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート	① 総合的な学習の時間等における環境教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 93.0%で指標を達成したが、教職員は 56.5%で指標には届いていない。

「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている」 ⇒児童 80%以上 児童 93.0% 「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている」 教職員 80%以上 教職員 56.5%	② 道徳教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して道徳教育を計画的に実施する。【A2①再掲】 ③ 東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実する。	A A	【次年度の方針】 ①については、総合的な学習の時間の年間指導計画を見直し、環境や食をテーマとして地域や世界の学習素材を活かしながら、横断的、総合的な学習を実践していく。 ②については道徳科のほか、社会、理科、家庭科等の教科指導の中で考える視点として積極的に取り上げる。 ③については学校行事等で取り上げ実践していく。
○B1 児童は正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童 90%以上 児童 93.8% 「児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒保護者 84%以上 保護者 82.9% 「児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 地域住民90%以上 地域住民85.0%	① 相手の気持ちを考えた言葉づかいや場に応じた言葉づかいができる子の育成を目指し、生活と学習の両面から日常の指導を充実させる。 ② 年3回の「あいさつ・言葉づかい名人」表彰や、地域協議会の挨拶運動で意識を高めながら、日々の生活指導の中であいさつや返事ができる子の育成を目指す。 【A4①再掲】 ③ 朝の会や帰りの会、学校行事、学級活動等で、時や場に応じた適切な言葉づかいができるよう、学年の発達の段階に応じた指導をする。	A A A	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 93.8%で指標を達成したが、保護者と地域住民はそれぞれ 82.9%、85.0%で指標に届かなかった。 【次年度の方針】 - 授業中や大人と話す際の正しい言葉づかい、職員室への入室の際のあいさつの仕方、休み時間の会話における言葉づかい、日常的に「さん」付呼称の仕方等、様々な場面で望ましい言葉づかいの例を示し、教職員の共通理解のもとで徹底して指導に当たっていく。 - 学級懇談会や家庭訪問、個人懇談等でも「言葉づかい」について話題として取り上げ、家庭と連携を図り指導に当たりたい。
B2 児童は栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、好き嫌いなく給食を食べている。(きらいなものでも1口は食べている)」 ⇒児童 95%以上 児童 96.0% 「自分の子どもは、好き嫌いなく食事をしている(嫌いなものでも1口は食べている)」 ⇒保護者 82%以上 保護者 80.7%	① 学校栄養職員の取組を生かし、給食指導の充実を図りながら食事のマナーを身に付けさせる。 ② 栄養バランスを考えた食事指導(嫌いな物も一口食べさせる給食指導の徹底)を行い、望ましい食習慣を育てる。	B B	【達成状況】 - 児童肯定的回答率 96.0%で指標を達成したが、保護者は 80.7%で指標には届かなかった。 - 教室やランチルームでの会食時には、献立について、栄養のバランスや食材等の情報を伝え、食育指導をその都度行っている。また、偏食のある児童に対しては、少しずつ食べられるように個別に指導している。 - 給食便りで家庭への食に関する啓発を行ったり、高学年の給食委員会の児童を中心に食事マナーに関するイベントを実施したりした。 【次年度の方針】 ①については、学級活動や家庭科など、学校栄養士の専門性を生かした授業を各学級で実施し、バランスよく食べることの大切さを学年に応じて指導する。【再掲A6】

		③ 食事をとることの大切さについて、学年に応じた授業を通して理解を深めたり、給食便りや学年・学級懇談会で保護者への啓発を行ったりし、自ら実践する態度を育てる。	A	・②については、食に関する内容の授業を公開したり、給食便り等で保護者に対して、好き嫌いなく食べることの大切さの啓発や人気メニューのレシピの紹介を行ったり、学年・学級懇談会で食事の大切さを話題にしたりするなどして、家庭への協力を呼びかける努力を継続的に行う。
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」について、関心をもっている」 ⇒教職員 80%以上 教職員 100%	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。	A	【達成状況】 ・教職員肯定的回答率 100%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・特別な支援が必要な児童については、特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全職員で協力・連携して指導に当たる。また、必要に応じてケース会議を開き、迅速かつ適切に対応できるようにする。
		② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の支援計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	A	
	○A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」 ⇒児童 95%以上 児童 97.8% 「学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいる」 ⇒保護者 95%以上 保護者 85.6%	① 「上河内中央小学校いじめ防止基本方針」を教職員、保護者及び地域に周知するとともに、方針に沿っていじめの防止に努める。	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 97.8%で指標を達成したが、保護者の肯定的回答率は 85.6%で指標には届かなかった。児童の肯定的回答率が 100%に近いことから、児童は教師がいじめを許さないという姿勢で指導していることを強く感じている様子が分かる。 ・学校の「いじめ防止基本方針」に沿った「いじめゼロ集会」等の取組を実施したが、各学年だより等で積極的な保護者への情報発信が十分ではなかった。 【次年度の方針】 ・全校縦割りによるいじめゼロのための集会や、いじめアンケート、教育相談を通していじめの防止や早期発見に努めることや、いじめ対策のための取組を学校自由参観日や各種便り等を通して計画的、継続的に保護者や地域に周知していく。 ・年度当初の家庭訪問や夏休みの個人懇談、学年・学級懇談等で、交友関係の実態を保護者と共有し、より良い友達関係の構築に努める。
		② いじめの早期発見・早期対応のため、いじめゼロを目指した定期的な無記名式アンケート調査の実施に加え、簡易的な記名式アンケート調査を実施して実態把握に努めるとともに、年に2回の教育相談を実施して問題の早期発見や信頼関係の醸成に努める。	A	

○A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童 80%以上 児童 98.5% 「教職員は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている」 ⇒教職員 80%以上 教職員 95.7%	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます指導に努める。【A5①再掲】 ② 教育相談、アンケート、Q U調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図る。	A A	【達成状況】 - 児童肯定的回答率 98.5%，教職員 95.7%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ①については、児童が学習活動を振り返り、学びを通じた自らの成長や変容を自己評価できるよう、キャリアパスポートを積極的に活用する。【A5再掲】 - 特別な支援が必要な児童については、特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全職員で協力・連携して指導に当たる。また、必要に応じてケース会議を開き、迅速かつ適切に対応できるようにする。【A13再掲】
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」について、関心をもっている」 ⇒教職員 80%以上 教職員 100%	① 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。 ② 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。	B B	【達成状況】 - 教職員肯定的回答率 100%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ①については、人権を尊重する心や、人を思いやる心の涵養を目的に、日常的な指導に努める。 ②については、外国人児童が学校に編入学してきた場合に備え、受け入れ体制づくりに努める。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「私は今の学校が好きです」 ⇒児童 95%以上 児童 93.1% 「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」 ⇒保護者 95%以上 保護者 91.2%	① 「かしこく、やさしく、たくましく」の合言葉の浸透を図り、笑顔と活気のある楽しい学校づくりを進める。保護者に対して、学年便りで、行事等での児童の活躍の様子を積極的に伝えていく。 ② 縦割り班活動や食農体験などの特色ある活動で、児童が主体的に取り組める場を設定し、協力して活動させる。 ③ Q-Uの結果を分析し、支援が必要な児童を把握したり、日頃の観察をきめ細やかに行ったりして児童一人一人が生き生きと学校生活を送ることができる学級経営を行う。	A A A	【達成状況】 - 児童の肯定的回答 93.1%，保護者 91.2%で指標には届かなかった。 ①については、児童昇降口の壁面に常時合言葉を掲示し、児童の目に触れるようにすることで意識付けを図っている。また、学校行事等でも、合言葉を実現させる機会を意図的に設け児童や保護者に浸透させるように取り組んできた。 【次年度の方針】 ①については、活気のある雰囲気が醸成できるよう、縦割り班活動や児童会活動など児童が主体的に活動できる様々な取組を学校全体で推進していく。また、保護者に対して学年便りで、行事等での児童の活躍の様子を積極的に伝えていく。 ②③継続

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童 95%以上 児童 96.7% 「教職員は児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 86.1%	① 児童の関心や理解を促す教材開発と、授業のねらいの明確化、振り返りの時間の確保など分かる授業を目指した「上央小授業スタンダード」による指導法の工夫に努めると共に、共有化を図る。 ② 算数科において、習熟度別学習、少人数学習、TTを効果的に実施するとともに、かがやきルームやなかよし学級での個別指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導をする。	A A	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 96.7%で指標を達成したが、保護者の肯定的回答率 86.1%で指標には届かなかった。 ①②におけるめあて・学びの時間の確保・まとめ・振り返りなど授業の展開等指導法の工夫や個に応じた指導など、学力向上のための各種の取組に対する児童の理解が深まりつつある。しかし、保護者への情報発信は十分ではなかった。 ②については、担当者間で情報交換を密にし、分かる授業の工夫・改善に努めてきた。 【次年度の方針】 ①②ともに、積極的な授業の公開や各種たより等により、保護者や地域住民へのさらなる周知を図る。 - 習熟度別学習や少人数指導については、単元に適した指導形態を柔軟に取り入れる - 授業の振り返りを基に意欲の継続を図るとともに、自学級やかがやきルーム等で、個に応じたきめ細かな指導を展開していく。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員 80%以上 教職員 100%	① 学校内において好ましい人間関係の醸成を図るよう努めることで、教職員と学校スタッフとが気軽に声を掛け合える雰囲気作りを行う。 ② 学校目標及び本年度の努力点について共通理解を図り、チーム学校として協働していくことで、同僚性を高められるようにする。	A A	【達成状況】 - 教職員肯定的回答率 100%で指標を達成した。 【次年度の方針】 - 校内のOJTを促進し、教職員やスタッフの専門性を発揮する場を設けるなど、今後もチーム学校として協力して業務に取り組む。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員 80%以上 教職員 100%	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。 ③ 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	A A A	【達成状況】 - 教職員肯定的回答率 100%で指標を達成した。 - 教職員一人一人が、学校の働き方改革の視点に立ち、勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組むことができた成果と考える。 【次年度の方針】 ①②③継続するとともに、「リフレッシュデー」を中心に全職員で定時退勤の促進を図る。

○A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒児童 95%以上 児童 94.3% 「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者 95%以上 保護者 89.0%	① 5年生の冒険活動教室や6年生の乗り入れ授業・中学校訪問、小中合同あいさつ運動などの行事を通して、積極的な交流を図りながら活動することを目指す。 ② あいさつ運動などを通して、地域の一員としての自覚を高められるようにする。	B A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 94.3%,保護者 89.0%で指標には届かなかった。 ・①②について、特に本地域学校園では中学校1年生と3校の小学校5年生が同時開催で冒険活動教室を継続的に行っており、キャンプファイヤーで交流したり、縦割りです野外炊飯活動を取り入れたりしている。年2回の中学校から6年生への乗り入れ授業、年2回の小中合同あいさつなど、積極的に交流している。 【次年度の方針】 ・①②継続。家庭や地域への情報発信等、これまで以上に行っていく。
○A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童 80%以上 児童 96.0% 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者 80%以上 保護者 93.5%	① 学校支援ボランティアの活用や出前授業、校外学習などにおいて地域の人材や施設・設備等の教育力を生かした学習を充実させる。 ② 「魅力ある学校づくり地域協議会」において、児童の健全育成を目指し、学校・家庭・地域の連携を深める事業を推進しながら交流の輪を広げる。	A A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 96.0%，保護者 93.5%で指標を達成した。 ・①②ともに、地域協議会や地域住民の協力を得た授業や出前講座等により、地域の人材を活用した効果的な活動を展開することができた。 ・児童が課題解決の方策として、地域教材や人材を広く求め、より深い追究をすることができた。 【次年度の方針】 ・学校として、年間を見通した外部講師への依頼内容をまとめ、地域協議会等の組織を機能させて交流を深めていく。 全学年：田植え、稲刈り 1年：昔遊び 2年：地域探検 3年：郷土資料館見学、地域のスーパー見学 総合的な学習の時間の地域自慢の発信 4年：松田新田浄水場の見学 5年：老人福祉センター見学、ぼうじぼ作り 6年：薬物乱用防止教室、
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童 80%以上 児童 96.0%	① 地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施などを行っている。 ② 校外での体験活動時の安全確保や、授業への支援などへの協力、参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用している。	A A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 96.0%，保護者 93.5%で指標を達成した。 ・①②ともに、地域協議会や地域住民の協力を得た授業や出前講座等により、地域の人材を活用した効果的な活動を展開することができた。 ・児童が課題解決の方策として、地域教材や人材を広く求め、より深い追究をすることができた。【再掲 A22】

「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者 80%以上 保護者 93.5%	③ 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	A	【次年度の方針】 ・今年度の反省を踏まえ、地域協議会各支部の活動内容や学校支援ボランティア活動について改善を図る。また、引き続き、家庭や地域への情報発信を行っていく。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者 80%以上 保護者 89.2% 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 地域住民 80%以上 地域住民 100%	① 日々校舎内外の巡視をするとともに、月1回施設・設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕を迅速に行い環境の整備に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症対策予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	A	【達成状況】 ・保護者肯定的回答率 89.2%，地域住民 100%で指標を達成した。 ・学校を利用するすべての人が安全に過ごせるよう、定期的な安全点検や防災気象情報の収集を行ってきた。 【次年度の方針】 ・①②③継続するとともに、次年度は校舎の大規模工事が予定されており、児童等の安全確保を徹底する。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童 80%以上 児童 88.7% 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している」 教職員 80%以上 教職員 82.6%	① 児童がタブレット型パソコンや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 【A10①再掲】 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 【A10②再掲】 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。 【A10③再掲】	A	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 88.7%，教職員 82.6%で指標を達成した。 【再掲 A10】 【次年度の方針】 ・①②については、タブレット型パソコンや情報通信ネットワーク、学校図書館など情報手段を活用するために必要な環境を整え、校内での共通理解を図った上で、年間指導計画に基づき活用していく、学校図書館教育年間指導計画の見直しを行い、各教科・領域及び各学年相互の関連を図って計画的に指導できるようにする。 ・③継続 【再掲 A10】

本校の特色・課題等	B3 児童は学級や縦割り班の活動などで仲良く助け合って生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学級やにこにこ班の活動では、友達や下級生と仲良く過ごしている。」 ⇒児童 98%以上 児童 97.4%	① 日々の清掃活動や学校行事などで、縦割り班での活動の機会を設定し、学年の枠を超えて協力して仕事や活動ができるようにする。	A	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は昨年度より 1.1 ポイント上昇し 97.4%であったが、指標には届かなかった。 - 日々の清掃活動をはじめ、1年生を迎える会、6年生を送る会、羽黒山遠足、いじめゼロ集会や感謝の会等の行事を縦割り班で行うことで、それぞれの学年に応じた役割や協力がなされている。特に、6年生のリーダー性が生まれ、異学年交流のよさが生かされている。 【次年度の方針】 - 各活動を継続するが、安全性、効率性を踏まえて、適切な内容について更なる改善を図る。
	OB4 児童は自主的に学習に取り組むなど学習習慣が身に付いている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「私は自分から進んで学習する習慣が身に付いている」 ⇒児童 85%以上 児童 86.5% 「児童は自主的に学習に取り組むなど、学習習慣が身に付いている」 教職員 95%以上 教職員 100% 「自分の子どもは自分から進んで宿題を行うなど、学習習慣が身に付いている」 保護者 95%以上 保護者 74.8%	① 職員間で共通理解を図り、児童が自主的に学習に取り組めるように自主学習ノートや音読カードなど、具体的な方策を立て継続して指導していく。 ② 年度当初に全家庭に「家庭学習のすすめ」を配付し共通理解を図り、家庭と連携する。児童には「家庭学習への取組ポイント」を示し指導し低学年(20分)、中学年(40分)、高学年(1時間以上)の家庭学習を实践させる。また、学期1回「家庭学習名人」表彰を行い、児童の意欲を高める。	A	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率が 86.5%、教職員 100%で指標を達成した。 - 保護者の肯定的回答率 74.8%と昨年度より 8.7 ポイント上昇したものの指標には届かなかった。 - 音読や各種の練習カード、家庭学習については、年度当初から各学年の実態に合わせた形式で実施した。自主学習ノートについては、2～6年生が年度当初から、1年生は夏休み明けから実施している。家庭学習がよくできている児童を「家庭学習名人」として学期に1回表彰している。また全校朝会の折に学校長から課題が出されることがあり、実施した児童のノートのコピーを職員室前の廊下に掲示し、称賛している。 【次年度の方針】 - 年度当初に家庭学習の進め方や自主学習ノート作りの例を、時間をとって児童に説明し、継続的に実施できるように支援していく。また家庭学習のめやすの時間の検討も行う。 - 家庭と連携して、継続的に自主学習の習慣が定着するように、年度当初の保護者会等で家庭への協力を依頼し、学年だより等で全体的な取組状況を伝えながら各個人懇談等で家庭での様子を確認していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 学校運営について

- ・ 全体アンケートでは、多くの項目で市の平均肯定的割合を上回る結果となった。学校運営に関して、全職員の共通理解を図りながら、授業改善や校務運営にあたった成果と考える。
- 地域の教育資源等の積極的活用に関する項目 A22・23 では、全対象者において市の平均肯定的割合を上回る結果となった。読書指導や見守り活動など、地域と連携した教育活動が定着し、学習指導においても様々な場面で地域人材や地域施設等を活用した授業を展開することができた。登校時や低学年下校の見守り活動では、新しいボランティアメンバーも加わり、より広範囲の見守りが可能となったため、通学路の安全確保を一層強化することができた。また、授業支援ボランティアについては、家庭科のミシン指導や、生活科や社会科の地区内校外学習の引率のボランティアに加え、朝の学習の丸付け支援で協力が得られた。
- 小中一貫教育では、乗り入れ授業や小学校 6 年生による中学校訪問、あいさつ運動、冒険活動教室における合同活動など、地域学校園での交流を行うことができた。
- 一方で、いじめゼロに向けた取組、学校の活気や明るさ、あいさつに係る項目では、課題が見られた。次年度は、児童が自分たちの学校を自分たちで良くし、互いを高め合おうとする雰囲気づくりに努めていく。
- 不登校を生まない学級経営に係る項目では課題も見受けられることから、多様な児童の状況に応じた指導の充実に努めていく。

2 教育活動の状況について

(1) 学習指導

- ・ 「A1 児童は進んで学習に取り組んでいる」「B4 児童は自主的に学習に取り組むなど、学習習慣が身に付いている」の項目では、児童や保護者の肯定的回答が昨年度よりも上回る結果となった。「主体的・対話的で深い学び」を目指した上央小スタンダードを授業に盛り込み、授業改善に取り組んできたことや、「家庭学習のすすめ」を配付し家庭への協力を依頼するなど、家庭と連携した学習習慣づくりに取り組んできた成果と考える。

(2) 児童指導

- ・ あいさつ・言葉づかいに関する項目で昨年度と同程度の成果を上げている。「あいさつ・言葉づかい名人」の表彰や、地域協議会と連携・協力して行っているあいさつ運動、年 2 回の小中合同あいさつ運動などの成果と考えられる。
- ・ いじめに関する項目では保護者の肯定的割合が市の平均を上回る結果となったが、昨年度を 7 ポイント以上下回ってしまったことを重く受け止めている。今後も「いじめ防止基本方針」に沿った、いじめゼロ集会やいじめアンケートの実施を通し、学校全体でいじめを生まない素地づくりに努め、児童や保護者からの相談があった場合には、迅速に適切に対応していきたい。

(3) 健康（体力・保健・食・安全）

- ・ 健康や安全に関する項目 A6 では、全対象者において市の平均肯定的割合を上回る結果となった。日常での保健・体育的指導や羽黒山遠足での全校登山、持久走大会、冒険活動教室などの体験活動を通して、児童が自分自身の健康や体力について考え、進んで行動したり粘り強く取り組んだりできるような指導・支援を行ってきた。安全指導については、全職員の共通理解のもと、登下校時の安全な歩行の仕方や避難訓練、交通安全教室等を計画的に実施してきた。

7 学校関係者評価

- ・ 元気で明るい児童が多いが、進んで挨拶ができる児童は少ない。挨拶の意識化や定着化については、継続した指導が必要である。
- ・ 「正しい言葉づかい」に関する項目では、児童だけではなく、教職員や保護者の言葉づかいも気になる。教職員や保護者も、相手の気持ちを考えた言葉づかいや場に応じた言葉づかいを心掛けてほしい。
- ・ これからも、いじめのない学校づくりや一人一人を大切に学級づくりをお願いしたい。地域学校園としてノースマホデーを作り、四校全体でスマホのあり方を考えていくような取組があってもよい。
- ・ ICT 機器や学校図書館の活用、プログラミング教育の実施など、情報化社会に対応する教育の推進について、次年度からの計画的な取組が大切である。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・昨年度の結果や市内の小学校の平均と比較すると、全体として一定の評価を得られたものとする。保護者又は地域住民の回答において、肯定的回答率が市の平均及び昨年度の値より低く、かつ90%を超えていない「あいさつ」に関する項目に関しては、具体的な方策を立てて実践する。
- ・「あいさつ運動」や「いじめゼロに向けた取組」では、児童会を活用するなどして、児童が自分たちの学校を自分たちで良くする自主的、実践的な活動を推進する。
- ・児童理解に努め、校内体制の整備及び家庭との連携により、多様な児童の状況に応じた指導・支援を充実する。
- ・学習指導に関しては、「分かる」授業、児童が学ぶ喜びを感じられるような授業を目指し、「上央小授業スタンダード」による指導法の工夫や授業改善に取り組んでいく。
- 「小中一貫教育・地域学校園」と「魅力ある学校づくり地域協議会」を充実させ、地域の教育資源等の積極的活用、「親学」の推進など、地域とともにある学校づくりの推進に努める。